

## 令和7年度第2回 海岸工学委員会委員会議事録

開催日時：令和7年11月26日（火）18:05～19:55

開催場所：サンポート高松 国際会議場（対面）および Web（Zoom）によるハイブリッド会議  
出席者（敬称略）：

### 【オンライン】

岡安相談役、渡部委員長、田島副委員長、五十里、遠藤、安田、宮本、小野、川崎、久保田、鈴木一輝（岩前の代理主席）、柴田、猿渡、山城、高川、李、内山、中村、馬込、大井、鈴木、織田、榎田、太田、保坂、宮武、入江、加藤史訓（川崎様の代理出席）、鳴原、有川、下園、山中、荒木、瀧谷、木原。

【web】松下、秋山、比嘉、多田、越村、門廻

議事録：福谷、原田

### ■ 前回議事録の確認：前回委員会の議事録（WEB公開済）を確認した。

### ■ 第72回海岸工学講演会論文審査（山城、中村）

- ・ 山城委員より、2025年度土木学会論文集特集号（海岸工学）について報告があった。  
登録論文数：271編（過去5年：290, 219, 248, 258, 306編），通過論文数：271編（すべて海岸工学講演会で発表）。要旨の書き換えを求めるもの2編について説明された。
- ・ 論文発表審査に関する報告があった。査読者は計120名（昨年度：111名）。
- ・ J-STAGE論文審査に関する報告があった。JSTAGE論文審査 本論文登録数：175編、本論文登録なし：CEJ 7編、CEJ以外 88編、未回答1編、J-STAGE論文審査結果 通過論文数：168編（不採択7編），今年度導入したEMでの論文受付時の問題について、EMの標題欄、投稿遅れ、査読依頼時、主査報告作成・審査結果通知時、修正原稿投稿・再査読時、最終原稿受理時、最終原稿投稿時に分けて報告があった。次年度へ向けての課題として、著者、査読者、主査がそれぞれ注意すべき点の報告があった。
- ・ 土木学会論文集編集委員会／編集調整会議の内容について報告があった。投稿者の異議申し立てに対応する仕組みについて紹介があった。通常号（英文）・特集号（英文）に関する今後の方針について説明があった。特集号（英文）については、2026年1月からJournal of JSCE Special Publicationとして発刊される説明があった。
- ・ 原田幹事長より、著者負担金と論文集DVD価格の検討、新EM導入費用、海岸工学論文賞・奨励賞の選考等について説明があった。

### ■ 第72回海岸工学講演会の準備状況について（山中）

- ・ 山中委員から、第72回海岸工学講演会の開催の状況が報告された。第72回海岸工学講演会では、前日シンポジウムは対面で150名程度、オンラインは最大250名程度（同時接続数）の参加者であったことが報告された。また、11月26日時点で300名超の参加者であったことが報告された。

## ■ 第73回海岸工学講演会の準備状況について（山城）

- ・ 山城委員から、第73回海岸工学講演会の準備状況について報告された。会期：2026年11月10日（火）～11月13日（金），開催場所：大分県大分市、ホルトホール大分（予約済み）にて開催されることが報告され、また、実行委員会及び会場が紹介された。
- ・ 予算計画は、会場費見込みで総計1,072,200円。
- ・ 見学会の候補地として、大分港、別大国道フレア型護岸を検討している。
- ・ 懇親会（11月12日（木）18:30-20:30トキハ会館）は予約済みであることが報告された。
- ・ 会場の使用開始時刻が9時で、それ以前は準備でも使用できないため、第1セッションが9時に開始できない見込みであることが報告された。

## ■ 第74回海岸工学講演会の準備状況について（川崎）

- ・ 川崎委員より、第74回海岸工学講演会の準備状況が報告された。会期は、2027年11月9日（火）～12日（金）。開催場所：岐阜県、会場：じゅうろくプラザ（会場予約は2年前から）で開催予定。
- ・ 第1会場以外の会場が若干狭く、席数が少ないため、一部机を撤去して座席数を確保する予定。
- ・ 実行委員会のメンバーは、今後確定する。

## ■ 第60回水工学に関する夏期研修会（Bコース）開催について（山城）

- ・ 山城委員から第60回水工学に関する夏期研究会の開催状況について報告があった。
- ・ 参加者は、現地でAコース：53名、Bコース45名、オンデマンドでAコース：58名、Bコース43名の計199名であったことが報告された。また、研修会の収支が報告された。
- ・ 新しい試みとして実施した交流会の内容について報告があった。参加者10～20名で好評であった。
- ・ 各種アンケートの結果について報告があった。今後取り上げてほしいテーマとして、気候変動関連のテーマや実務に基づくテーマの希望が多かったことが報告された。

## ■ 第61回水工学に関する夏期研修会（Bコース）の準備状況について（模田）

- ・ 模田委員より、第61回水工学に関する夏期研修会（Bコース）の準備状況について報告された。テーマは「頻発・激甚化する流域・沿岸災害に関する調査・解析と防災を考える」（要検討），開催日時は、2026年8月27日（木），28日（金），会場は、金沢大学角間キャンパス、開催形式は、対面+オンデマンドであることが報告された。担当者は、Aコース：谷口（金沢大），Bコース：模田（金沢大），由比（金沢大）。参加費は一般16,000円、学生10,000円（今年度同様）を予定。
- ・ 予定している講師と時間割について説明があった。講義題目の確定は3月を予定。

## ■ Coastal Engineering Journalについて（内山）

- ・ 内山委員より、Coastal Engineering Journalについて報告された。

- CEJ編集小委員会メンバーのBruno Adriano先生がAssociate EditorからEditorになったことが報告された。
- 2024年のIFが1.9となり、去年と同様の数値であったことが報告された。Ocean Engineering系のJournalの引用が上がっていることが影響している可能性が報告された。
- 2024年の被引用数は1,097（2023年：936）であり少し増加した。
- Open Accessの効果は、OA：34編→68被引用（2.0/paper），非OA：74編→84被引用（1.22/paper），OAにより被引用率が1.14→2.0：75%高くなっている。
- 今年発表されたCEJ論文、テクニカルレポートが紹介された。
- The 2024 Noto Peninsula Earthquake Tsunami and Tsunamis in the Sea of Japan Region, 11/7現在、10編採択済み、3編査読中であることが報告された。
- CEJ Award関連、CEJ招待講演、Special Issue 2027の企画「CFD海岸工学（予定）」等について報告があった。
- 田島副委員長より、被引用数を上げるための取り組みについて、公開論文のリストをcecomで告知してはどうかという意見があり、今後検討することとなった。

#### ■ 広報・出版小委員会（鷗原）

- 下園委員が退任し、五十里委員が就任、また、伴野委員の新任について報告された。
- Web情報の充実に関して、海岸工学関連の本の紹介（おすすめ書籍），海岸工学講演会関連、海岸工学論文集データベース（更新終了），若手の会、小委員会、研究会の情報更新（随時），災害DBの順次補充、海岸工学の魅力、波浪や津波等の一般向け、サイト設定の修正、サーバー管理、ソフトウェアアップデートなど）を充実させていくことが報告された。
- 講演会プログラムの作成状況について報告があった。

#### ■ 海岸・海洋デジタルツイン研究小委員会（越村）

- 越村委員より、海岸・海洋デジタルツイン研究小委員会の活動について報告された。
- 委員長：越村俊一、アドバイザ：森信人、各WP（ワーキング・パッケージ）のメンバーで今年度から活動を開始した。
- 2025年7月に第一回委員会を開催した。
- 2026年のAOGSの企画セッション"IG33 Digital Twin Paradigms in Coastal Resilience"を開催予定であることが報告された。

#### ■ 研究小委員会、研究会、WGの活動について（事前送付）

- 波動モデル研究会（事前送付のみ）
- 波動と地盤の複合場における地盤材料の取扱方法に関する研究会（事前送付のみ）
- 地域研究活性化WG（事前送付のみ）
- 沿岸域研究連携推進研究会（事前送付のみ）
- 沿岸域における気候変動適応策に関する研究会（事前送付のみ）

## ■ その他

### 省庁連携特命WG (田島)

- ・ 田島副委員長より、省庁連携特命WGの活動について報告があった。
- ・ 第3回海岸工学懇談会を2025年10月24日に中央合同庁舎にて開催した。今後、年1回程度で開催する予定。
- ・ 海岸関連人材強化プロジェクトの活動について報告があった。シードクター、検討会プラス1、河川砂防技術研究開発公募提案型課題（海岸）の新設、国交省職員の能力強化、直轄事務所担当者会議の新設、検討業務への学識経験者意見聴取を位置付け。

### サーバーセキュリティ対策特命WG (川崎)

- ・ 川崎委員より、サーバーセキュリティ対策特命WGの活動について報告があった。
- ・ 海岸工学委員会サーバーの管理・運用方針について報告があった。
- ・ 海岸工学委員会HPのアップデート対応について報告があった。
- ・ 論文投稿・査読システムサーバー（旧）の扱い方について報告があった。年間維持費用が43,560円で、現在の利用期間は2026年2月28日まで。本サーバー（旧）の継続契約はしない方針となった。

### 海岸工学2040特命WG (川崎)

- ・ 川崎委員より、海岸工学2040特命WGの活動について報告があった。
- ・ 前日シンポジウム3で活動の内容を報告した。
- ・ 今後の予定（土木学会論文集通常号への投稿、科研費・学術変革領域研究（A）への申請）について説明があった。

### 第4回日中土木学会ジョイントシンポジウム+APAC (原田)

- ・ 原田幹事長より、第4回日中土木学会ジョイントシンポジウム（2026年9月開催予定）の開催について報告があった。
- ・ 水工主導で進め、海岸工学委員会としては可能な範囲で協力する意向を伝えた。
- ・ APAC2027は、2027年10月19日から22日に南京にて開催予定。アブストラクト受付は2026年末頃。Proceedings paperの出版は廃止（本論文の提出は無し）。アブストラクトは図を含めた2ページ程度のものに変更（ICCEと同様）、アブストラクトの査読結果から候補を絞り会議でのプレゼンテーションに基づいて賞を決定する。
- ・ APACのメンバーについて報告があった。

### ICCE2028 (原田)

- ・ 原田幹事長より、ICCE2028の開催について報告があった。
- ・ 2028年5月7日～12日、大阪国際会議場（10F・全フロア）（予約済み）で実施することが報告された。

## ■ 論文賞・奨励賞審査方法について（原田）

- ・ 原田幹事長より、論文賞・奨励賞の選考方法について、説明があった。
- ・ 採点ミス防止対策案について、評価方法をシンプルにする、また、幹事長の採点結果を委員長・副委員長が幹事会前に慎重に確認する、との提案があり、承認された。
- ・ 評価方法の改善案について、査読対象候補論文の抽出は、これまでと変わらず3名の査読者の採点によって決定し、賞の選考は同一審査員5名による採点結果のみを用いて同一基準で実施する（○による採点は廃止），との提案があり、承認された。それぞれ、審査項目として、新規性、独創性、有用性、完結性、信頼度の5項目とすることも確認された。
- ・ 賞選考のプロセスとして、1)審査員5名の総得点で優劣を決める、2)上記で決まらない場合、審査項目の満点の数によって優劣を決める、3)それでもさらに同順位の場合には5名の審査員で投票して優劣を決める、ことが提案され、承認された。
- ・ 山城委員より、「独創性」の項目を加えること、採点表示についてEM表示の修正について検討することが報告された。

#### ■ 委員長候補選挙実施について（原田）

- ・ 原田幹事長より、委員長候補選挙実施の時期について、提案があった。
- ・ 選挙による委員長候補者の選出を11月に実施し、体制移行の円滑化と議論の充実を図ることが提案された。変更理由①として、区切りの良さ、変更理由②として、業務の集中を回避することである。選挙を11月に実施することの是非、承認条件、表現について（次期委員長または委員長候補）、内規の修正と加筆、実施する場合の具体的スケジュールについて提案があった。
- ・ 選挙を11月に実施する方針は承認された。具体的な選挙方法については今後審議することとなった。

以上